

N·G·F

業界ニュース

■新日本硝子 86年7月16日 日本工業

オプト分野進出

新日本硝子は、真空薄膜研究所を設立し、光学用多層膜の研究、製造を柱にオプトエレクトロニクス分野に進出した。同研究所ではレーザー関連機器への素材提供を中心に医療、光通信、映像産業、事務機器等に应用範囲を広げていく。

■古河電工 86年7月18日 日本工業

光ケーブルで米国進出

古河電工は、ジョージア州アトランタ近郊に全額出資で FITEL 社を設立し、来年から光ファイバケーブルの本格的な製造販売を開始すると発表した。ケーブル材料となる光ファイバーは技術提携先である米コーニンググラス社他スペクトラン、ITT 社から購入、当面年間 6～7 万 km の光ファイバケーブルの生産を行う。

■日本板硝子 86年7月22日 日本経済

「すり」「透明」自在の調光ガラスを米社と共同開発

日本板硝子は、米国の液晶開発会社「タリックス社」と液晶シートを使い電圧の切り替えですりガラスと透明ガラスに自由に転換出来る大型調光ガラスを共同開発することで合意した。調光ガラスは、窓ガラスのカーテンが不要になるのでプライバシー保護や病院、クリーンルーム等の無人化や透視と不透視部分を自由に形成する事で情報表示カバーガラスなどの用途が見込める。

■無機材研 86年7月25日 日本工業

低コストな高硬度ガラス繊維

科技庁無機材質研究所は、酸化セリウムを精製する時の中間精製物であるセリウムコンセントレ

ートをアルミノ珪酸ガラスの中に混入してファイバ化したものがビッチ系炭素繊維並みのコストで製造できると発表した。このファイバは炭素繊維と比べて破断伸長度が2～3倍も大きく、このファイバと炭素繊維をいっしょに混入すれば「ねばり」のある炭素繊維強化プラスチックが作れるという。

■日本電気 86年7月24日 朝日

光ファイバで300km無中継伝送に成功

日本電気は、中継器なしで光ファイバーで300kmの伝送実験に成功した。この技術開発により理論的には、海底に中継器を置かず世界を光ファイバで結べるようになったという。

■東芝 86年7月30日 日経産業

回路線幅0.35ミクロン実現

東芝は、エキシマレーザーを使ってシリコンウエハーに超微細電子回路を作る露光技術を開発した。従来、回路線幅は0.5ミクロンが限界といわれていたが、エキシマレーザーを石英レンズの縮小光学系によって世界最小の0.35ミクロンのパターン形成に成功した。これにより電子ビームやX線に頼らなくても64Mビット級メモリーまで加工出来る道が開けた。

■通産省 86年8月8日 日刊工業

官民の研究交流促進

通産省は国際協調型構造への転換の一環として我が国に求められている新技術開発によるニューフロンティアの拡大を積極支援するため、茨城県の筑波研究学園都市内に「官民研究交流促進センター」を創設する方向で検討に入った。

N·G·F

業界ニュース

■旭硝子 86年8月14日 日経産業

音響光学素子を商品化

旭硝子は超音波を用いてレーザー光を制御する音響光学素子を商品化、サンプル出荷を始めた。音響光学素子は、光を透過させる酸化物単結晶に圧電体を張り付けた構造を持つ。圧電体を振動させて発生する超音波の回折効果を利用してレーザービームを高速でオン、オフする光変調素子や方向を変える光偏向素子として利用される。

■HOYA 86年8月21日 日経産業

ガラス製磁気ディスク開発

HOYAは、米国コンピューター関連メーカーと共同で次世代の磁気ディスクと言われるガラス製磁気ディスクを開発した。現在主流となっているアルミ製ディスクの5～10倍の記憶容量を持つ。

■オリベスト 86年9月12日 日本工業

1000°に耐えるガラス繊維紙

オリベストは、1000°Cに耐えるガラス繊維紙を開発、本格販売した。この商品は英国ICI社の特殊無機結合材と同社の繊維紙の技術の結合により生まれたものでこの無機結合材でガラス繊維1本1本を被覆、保護しているためこれまでにない高い耐熱性が得られたとしている。

■科技厅金材研 86年9月18日 日経産業

高純度シリカ、地熱水から製造

科学技術庁金属材料研究所は、地熱発電の副産物として得られる地熱水から高純度シリカを製造する技術を開発した。北海道にある地熱発電所1ヶ所だけで年間2000トンのシリカ製造ができ、半導体をはじめとする電子部品への応用が期待されるという。純度は99.98%。

■日本光学 86年9月19日 日本工業

光磁気ディスクに参入

日本光学工業は、すでにNHK、放送機器メーカーのアサカと記録、再生が可能な光磁気ディスクシステムを開発している。この光磁気ディスクシステムは、ビデオディスクとしては世界で初めて動く画像の記録、再生を可能にしている。ディスク材料、光学ヘッド、信号処理システムに工夫を加える事により画像を何回でも記録、再生できるのが特徴。

■セイコーエプソン 86年9月21日 朝日

石英ガラスの板や管、連続的量の生産の新技術

セイコーエプソン社は、高品質の石英ガラスを板、管状に連続的に量産する新技術を国際競争の中で成功した。製造法はゾルーゲル法で出発原料としてシリコンアルコキシドを用いており、このほど米国での特許が認められた。

■通産省 86年9月26日 日本工業

ニューガラスで基本問題懇を設置

通産省は、「ニューガラス産業基本問題懇談会」(生活産業局長の私的諮問機関)を設置した。同懇談会は、作花済夫京大教授を委員長に産学官から19名参加し、ニューガラスへの期待とその背景、現状、展望、発展のための課題などの検討をし、ニューガラス産業の振興策をまとめ同省に提言する。